



01



03



02



04

01. たわわに実るりんごの実。02. 一面雪で覆われた唐糸御前史跡公園。03. 8月上旬に行われるねぶたまつり。04. 藤崎町で採れた特産品の数々。

ふじさきまち  
青森県 藤崎町 とは

津軽平野のほぼ中央に位置する藤崎町は、りんご畑とたんぼが広がる農業が盛んな町です。明治時代からりんごの栽培に取り組み、生産量世界一のりんごの品種である「ふじ」が産み出された場所でもあります。

ほかにも、米やにんにく、アスパラなどさまざまな作物が生産されている「実りのまち」です。

人口 15,202人

(平成29年8月末現在)

面積 37.29km<sup>2</sup>



藤崎町マスコットキャラクター  
ふじ丸くん



# みかんと りんごの お付き合い

みかん(紀宝町)とりんご(藤崎町)の交流がスタート

三重県紀宝町と青森県藤崎町という直線距離で約900kmも離れた2つの町で、ローカルtoローカルという新たな取り組みを進めています。

太陽の恵みをたっぷり受けた紀宝町の柑橘と、津軽平野の肥沃な土壌が産み出す、りんごをはじめとした藤崎町の特産品の直接交流をはじめ、これらの特産品を掛け合わせた新しい商品の開発などを連携して進めていきます。

今回は、これまでの両町の取り組みや今後の予定などを紹介します。

## ローカルtoローカルとは？

大都市を経由せず、地方と地方が直接交流する仕組みを構築することで、時間と経費が節約できるほか、相互の地域活力の底上げを図る取り組みです。

また、双方の物産交換販売のみに止まらず、新たな商品、新たな文化、新たな情報、新たな価値観を生み出すきっかけにもなります。



01



03



02

01・02. リニューアル予定の農産物直売施設「食彩ときわ館」の外観と中の様子。03. 紀宝町での地域間連携商品づくりについて意見交換。

## これまでの経緯

りんご「ふじ」発祥の地である青森県藤崎町では、農産物直売施設「食彩ときわ館」を平成30年度にリニューアルオープンします。

しかし、冬季は販売物が不足することもあり、商品の充実を図るため、ほかの地域との連携を検討していました。

そんななか、紀宝町の柑橘類の紹介を受け、藤崎町の商工会長ほか関係者7名が、地域間交流の可能性調査のため、平成27年10月29日、紀宝

行いました。

平成28年12月3日には、藤崎町の拠点づくりアドバイザーおよびデザイナーが、紀宝町に訪問し、柑橘類栽培の様子などを取材しました。

これらを受け、紀宝町では、地方創生の取組の一環として本年1月19日、20日に町長、商工会長ほか関係者6名が藤崎町を訪問し、藤崎町長、商工会長をはじめ関係者と、地域間連携商品づくりと今後の連携について意思統一を図りました。



北のりんごと、南のみかんが  
出会って生まれる新しい実り

町を訪れ、紀宝町マイヤーレモン生産組合の園地の視察などを行いました。その後、平成28年11月4日には、藤崎町の商工会長ほか関係者8名が再度来町し、紀宝町商工会長、柑橘農家ほか関係者たちと地域間連携商品づくりについて意見交換を